

桃李の里



「子どもにとって、失敗は不可欠な学び」

「特に大事にしなければいけないのは、子供を人と比べて否定しないことです。だって、人はそれぞれまったく違うのですから。自分自身が目標としてライバルを設定し、高め合うのはありだと思いますが、よそのできる子供と比べて、もっとがんばれなんて言われるのは、子供にとって残酷なことです。それより、その子供のよいところを認めて伸ばしてあげたいです。」これは、国立教育政策研究所所長 浅田和伸さんの言葉です。(初等教育資料5月号より引用)浅田さんは、さらに、「失敗を認めてあげないといけません。人間は失敗しながら学ぶものです。子供にとって、失敗は不可欠な学びです。危なくないように大人目で見守ることは大事だけれど、その中でなるべく伸び伸びといろいろなことを試したり、失敗する経験もさせてあげたいです。失敗して恥ずかしい思いをした経験はずっと残りますが、それはとても貴重なことです。そして、子供のうちに、本を読むとか運動するとか、挨拶をするとかお礼を言うとか、様々なよい習慣を身に付けさせてあげることが、特に幼稚園や小学校の頃には極めて重要です。」と書かれています。

中野小学校の先生方が、日々一生懸命取り組んでくださっていることに間違いはないのだと思うとともに、保護者の皆様の御理解御協力があるからこそ、中野小学校でのよりよい教育活動を進められているのだと改めて考えさせられる文章でした。

今後子どもたちが失敗したり、様々な葛藤を感じたりすることがあったときに、私たち大人が上手に関わってあげることで、子どもたちにとって貴重な経験になるようにしていきます。



本に興味をもってもらうために



今年度も司書教諭の小泉瞳先生が魅力的な図書館になるようにと火曜日と金曜日、週に2回中野小学校に来てくださっています。

昇降口に面白そうそうな本をレイアウトしたり、昼休みに図書館の本と同じ題名のDVDを上映したり、子どもたちが本を手にとってくれるように工夫してくださっています。

中野小学校の全校生は多くはありませんが、たくさんの本と触れ合うことで作者の思いや考えとかかわることができます。これは、多くの人とコミュニケーションをとったことと同じくらい価値あることだと思います。

是非、保護者の皆様におかれましても、時間があるときに子どもたちと図書館や本屋さんへ足を運ぶ、家族で共通の本を読んで内容について楽しく会話する等、本の楽しみ方を共有していただければ幸いです。

